

2025年

多摩川

1970年頃



下水道の使命

水質改善により生き物が戻ってきた多摩川・大師橋付近 (撮影:白汚 零)



歴史の教訓、

多摩川に浮かぶ白い洗剤のアワをかきわけるようにして進む小型漁船



一般社団法人
東京下水道設備協会
三井田 健 会長

私たち一般社団法人 東京下水道設備協会の会員企業は、日本最初の下水処理場である三河島水再生センターをはじめ、東京都の20の水再生センターや85のポンプ所などに、機械・電気設備を納入しています。

下水処理には、大量の汚水や雨水を地下深くからくみ上げるポンプ設備、汚水から汚濁物質を沈殿分離してきれいにする沈殿池・反応槽設備、沈殿した汚泥を脱水・焼却処理する汚泥処理設備といった機械設備と、これらの機械設備に電力を

供給し、機器を操作・制御するとともに、停電にも備える電気設備などが必要です。浸水を防ぐとともに、汚水をきれいにして川や海に放流する、といった下水道の役割を果たすためには、設備機器の確実な動作が不可欠となります。

当協会は、これからも高品質の設備技術で東京の下水道を支え、温室効果ガス排出削減など、時代の要請に応えるために努力し続けます。



東京都下水道局
藤橋 知一 局長

東京の下水道は1884年に始まり、区部は1995年に概成、多摩地域は市町村とともに取り組み2011年に普及率が99%となり、以降、本格的な維持管理と機能更新の時代が始まりました。

多くの先人が140年にわたり築き上げてきた東京の下水道をしっかりと維持管理しながら、高度処理等の導入など良好な水環境の創出への取組も着実に進めてきました。さらに、再生水を活用した清流復活など、東京の水辺環境の改善に下水道は大きく貢献しています。

下水道の役割は時代と共に高度化し、激甚・頻発化する豪雨への対応、首都直下地震の備え、脱炭素の実現など、都民の更なる安全・安心への貢献が求められています。

24時間365日止められない、そして、生活を支え都市の発展に欠かせない下水道。100年先の将来像を描きながら、今後も直面する課題に積極的に取り組み、強靱で持続可能な東京の下水道を築き上げてまいります。



一般社団法人 **東京下水道設備協会**

アクアインテック株式会社／株式会社石垣／岩尾磁器工業株式会社／株式会社荏原製作所／カナデビア株式会社／株式会社クボタ／三機工業株式会社／住友重機械エンバイロメント株式会社／株式会社タクマ／月島JFEアクアソリューション株式会社／株式会社電業社機械製作所／株式会社東芝／巴工業株式会社／株式会社西島製作所／株式会社日立インダストリアルプロダクツ／株式会社日立製作所／株式会社日立プラントサービス／前澤工業株式会社／三菱化工機株式会社／三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社／三菱電機株式会社／株式会社明電舎／メタウォーター株式会社

(五十音順)